遊佐町人口ビジョン

概要版

2025 年 3 月

めざすべき将来の方向

統計データの分析結果や、町民アンケート調査から読み取れる町民意識の現況を踏まえ、次の５つを基本的な視点として設定し、まちのめざすべき将来の方向とします。

1. 「しごと」をつくり、「ひと」を呼び込めるまち
2. 新しい「ひと」の流れを作り、多くの「ひと」が還流するまち
3. 「子ども」と「若者」が希望にあふれるまち
4. 「子育て」の夢を育むまち
5. 一人ひとりが豊かな「くらし」を実感できるまち

人口の将来展望

社人研による将来推計人口では、本町の総人口は 2040 年に約 8,200 人、2060 年には約 4,500 人まで減少を続ける予測がされています。これに対して、「めざすべき将来の方向」に沿って政策を推進することにより、本町の総人口は 2060 年で約 6,700 人を維持します。

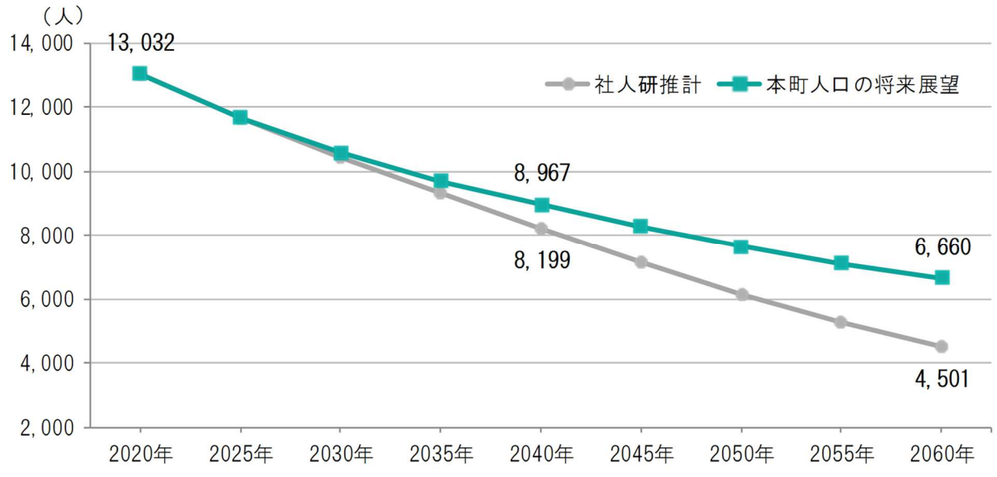
＜ 目　標 ＞

○合計特殊出生率が 2025 年に 1.46、2030 年に 1.76、2035 年に人口の置換水準である 2.07 まで上昇させ、その後も維持していきます。

○死亡については、社人研推計準拠と同様に設定します。

○移動について、社人研推計準拠で設定された純移動率から、20～40 代の純移動数が徐々に改善し、2035 年には年間 50 人改善、その後も維持と設定します。

本町総人口の将来展望



＜ 遊佐町人口ビジョン（改定版）の位置づけ ＞

○本町においては 2015 年 10 月に人口ビジョンを策定し、2060 年の人口目標である「人口の将来展望」を示し、人口減少をめぐる問題について職員・町民と認識を共有するとともに、今後めざすべき将来の方向性を提示しました。

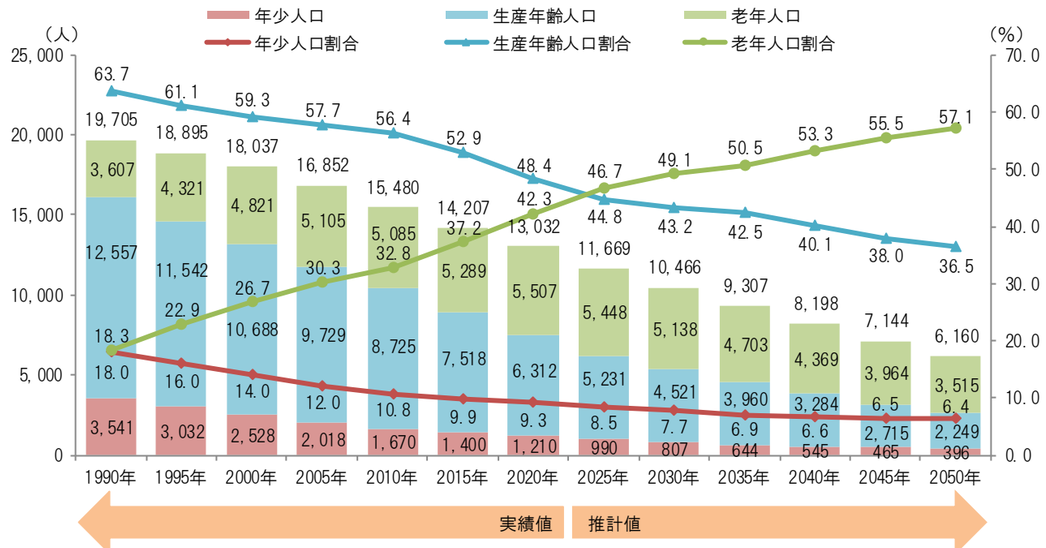
○この度、遊佐町総合発展計画（第 9 次遊佐町振興計画）の策定に向かうにあたり、人口ビジョン策定以降の社会の状況変化等を踏まえ、改めて本町の人口の現状を最新の統計データから分析し、人口の将来展望を見直すことにしました。

人口等の現状

国勢調査による 2020 年 10 月時点の人口は 13,032 人です。30 年後の 2050 年には 6,160 人と、2020 年に比べて 6,872 人（52.7%）の減少が予測されています。

年齢３区分別の人口をみると、生産年齢人口 は 2020 年～2050 年にかけて 4,063 人（64.4%）、年少人口は同年で 814 人（67.3%）と大きく減少します。これに対し、老年人口 は増加傾向が続くものの 2025 年になると減少に転じることから 2020 年～2050 年では 1,992 人（36.2%）の減少が予測されます。

総人口と年齢３区分人口の推移等

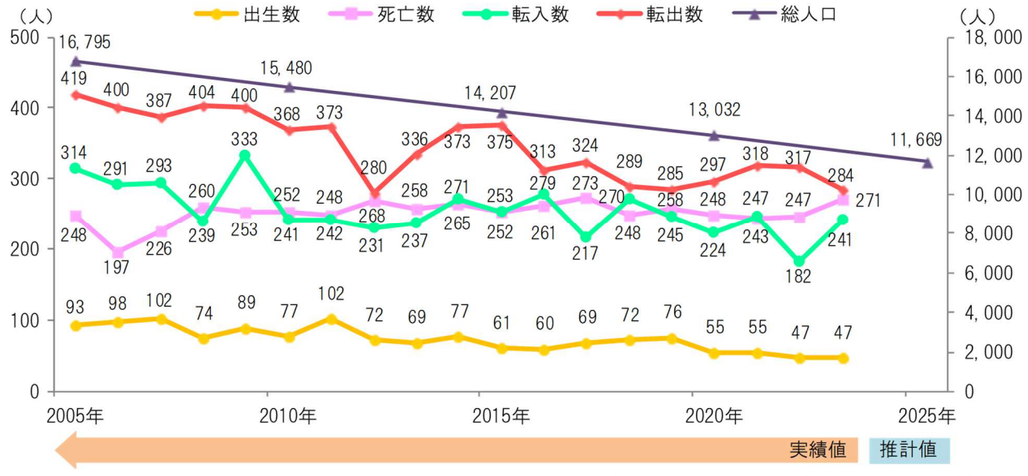


資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口

出生・死亡数と転入・転出数の推移

本町の出生・死亡数（自然動態）の動向をみると、2005 年以降出生数が減少する一方で、死亡数は出生数を上回り 250 人前後で推移しているため、年々その差は広がっています。また、転入・転出数（社会動態）の動向は、2005 年以降転出数が転入数を上回り、どちらも増減を繰り返しながら減少方向で推移しています。

出生・死亡数と転入・転出数の推移

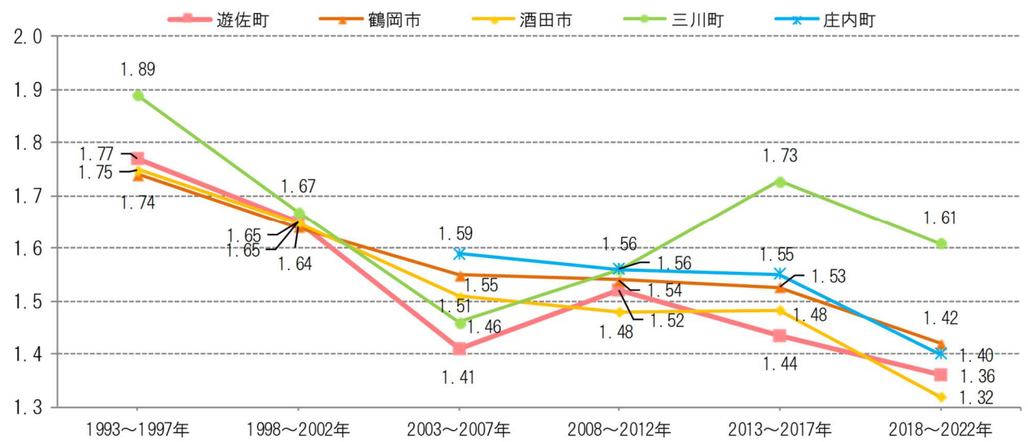


資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子どもの人数とされる「合計特殊出生率」の推移をみると、本町は 1993～1997 年では鶴岡市・酒田市と同様の数値を示し、2003～2007 年で一旦大きく減少しました。2008～2012 年に回復しましたが、その後は再び減少しています。

合計特殊出生率の推移



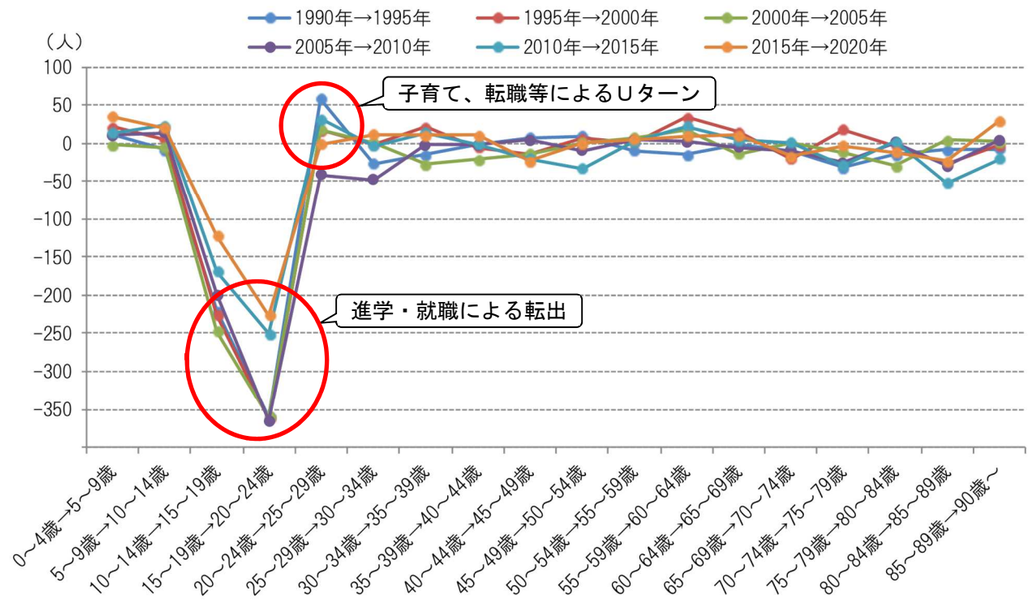
資料：山形県人口動態統計（1993～1997 年）、人口動態調査（1998～2022 年）

年齢階級別純移動数の時系列分析

年齢階級別純移動数を時系列順にみると、15 歳～24 歳の減少数が多く、減少数は近年小さくなっているものの、1990 年以降傾向の変化はみられません。これは、中学・高校・大学卒業後の進学・就職に伴う転出によるものであると考えられ、中学・高校卒業時の流出は近年小さくなっています。

また、2005 年以降 85～89 歳、2010 年以降には 45～49 歳が転出しており、若年層の転勤や、遠方に住む家族との同居や施設入所などで他自治体へ移動する町民が増えてきている様子がうかがえます。

年齢階級別純移動数の時系列分析



資料：国勢調査、住民基本台帳人口移動報告